

あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行
2023年2月1日
(第23号)
2月



「節分」

節分とは、春夏秋冬すべての季節の変わり

目のことを指します。そのため、本来は季節の

変わり目である、二十四節気の立春、立夏、

立秋、立冬の前日全てが節分となります。その

中でも春は新年の始まりとされることから

室町時代以降、春の節分が重要視され、立春

の前日が一般的な節分とされるようになりま

した。節分といえは豆まきです。季節の変わり

目には悪いものが家に入りやすいとされてお

り、それらを退治するために行われるように

なりました。中国で行われていた疫病を追

い払うための「追儺」という儀式がもとになった

といわれています。豆まきは鬼がやってくる夜

に行きます。家の奥から玄関に向かって「鬼は

外、福は内」と大きな声で唱え、勢いよく

豆をまきます。大きな声や、大きな音は

魔除けになるそうです。

豆まきの他にも、鰯の頭を焼いて柗の

枝で刺した「柗 鰯」を玄関に飾る風習

や、恵方巻を食べる地域もあります。また、

その昔、鬼退治をしたという家では鬼がや

つてこないのです。豆まきをしないという話

もあるようです。

節分に関するものは、地域やその家によ

って大きく違いがあるようです。みなさんの

家ではどのように節分を過ごしますか。



「朝日村図書館で大人気のあの絵本」 ～シリーズ本が人気のワケ～

朝日村図書館で貸出回数の多い絵本は「ノラネコぐんだん パンこうじょう」と「アニマルバスとよるのもり」です。この2冊はいずれもシリーズで刊行されており、どの本も大人気です。返却されては貸出されることを繰り返し、図書館の本棚にあることが珍しいくらいの人気があります。

シリーズ本に人気が出ることはよくあります。キャラクターが魅力的なことはもちろんですが、物語の展開を知っているという安心感は読みやすさにつながるからです。

大人はつい「いろいろな種類の本を読んでもらいたい」と考えがちですが、シリーズが好きな子どもにはそれぞれ理由がありますので、気の済むまで読ませてあげましょう。

☆朝日村図書館で大人気のシリーズ絵本☆

「ノラネコぐんだんシリーズ」	工藤ノリコ・著	所蔵数 11冊
「アニマルバスシリーズ」	あさのますみ・文	所蔵数 5冊
「パンどろぼうシリーズ」	柴田ケイコ・作	所蔵数 4冊
「ペンギンきょうだいシリーズ」	工藤ノリコ・作	所蔵数 4冊

「となりのトトロ」の食の世界を楽しむ
サツキが、家族のために作る、朝ごはんやお弁当。物語のイメージからヒントをもらったオリジナルレシピなどを紹介しています。
物語を楽しむながら調理できることはもちろん、身近な食材で作れ、料理がはじめての子どもでも作れるように調理工程も工夫されています。



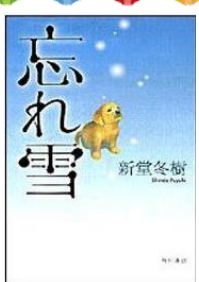
「ジブリの食卓 となりのトトロ」
編集：主婦の友社
監修：スタジオジブリ
出版社：主婦の友社

「ヤングケアラー」

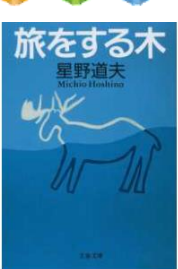
ヤングケアラーとは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことです。彼らは本当なら享受できたはずの、勉強や部活に励む時間、友人と過ごす時間、将来に思いを巡らす時間、これらの「子どもとしての時間」と引き換えに家



「不調女子ハトコの生姜まみれ生活30日間」
マンガ：ハトコ
出版：KADOKAWA



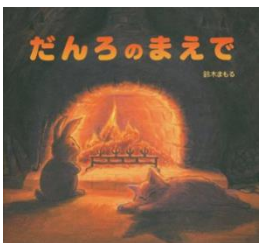
「忘れ雪」
著：新堂冬樹
出版：角川書店



「旅をする木」
著：星野道夫
出版：文藝春秋



「春になったらあけてください」
作：増井邦恵
出版：BL出版



「だんろのまえて」
作・絵：鈴木まもる
出版：教育画劇



「ガパルおじさんのまめスープ」
作・絵：やなせたかし
出版：フレーベル館

子ども向け

まだまだ寒さ続く2月ですが、暦の上ではもう「春」です。外は寒いけれど、心温まる本や、体温まる本、一足お先に春を感じられる本を読んで寒さを乗り切りましょう。

